

2023年1月20日

パソコン教室の窓から(55)

NPO 法人コミュニティNET ひたち(Cnet) 久保 裕

「年賀状じまい」で後悔しないように

今年卯年でウサギや文字をデザインした年賀状をいただきました。ウサギはぴょんぴょん跳ねて元気がよい、そして優しくかわいらしい姿が、この一年を穏やかで心身ともに健康で暮らしていきましょう、というメッセージが伝わってくる。

私の今年の年賀状の挿絵は右図のようにしました。書店で『今年の年賀状づくり』というような本が年末には沢山発行されていました。500円のムック



本を一冊購入して、絵図の画像が収録されているCDが添付されていたから、その中から、干支、ウサギの絵、新年らしく松に「迎春」の文字をWordのページレイアウトで、葉書サイズに設定して貼り付けてつくりました。これを年賀の挨拶とメッセージを書き込んで、令和5年元旦住所と名前を書いて、インクジェット印刷用の年賀状にパソコンでプリントしました。パソコンで作った年賀状はドキュメント・フォルダーの中に「年賀状」というフォルダーを作り、さらにその中に「2023年」と年別のフォルダーをつくっておくと、また来年もそれを開いて、Wordで絵や文字を修正すれば新しい年賀状ができます。宛先の住所録もパソコンで記録して管理している人は多いと思いますが、「筆まめ」などのアプリの毛筆体で綺麗に宛先と名前を書き込むことができます。これはWordの差し込み印刷機能でもできます。

日本郵政によると、2023年の年賀状は16億4千万枚で、ピークの2004年の44億6千万枚から3分の1に減っているようです。メールやSNSで新年の挨拶を済ませる人が増えたからなのでしょう。私のところにLINEの絵文字やYouTubeの動画で新年の挨拶をくれる人もいました。

「年賀状じまい」をする人もいますが、年始ご挨拶の習慣は大事にしたいものです。安易に差し出しをやめると、思いがけずに貴重な人間関係がなくなって後悔するケースもある、と新聞記事にありました。年に一回の安否確認のようなお知らせをいただくこともあります。幼少のころからの友人で、今では年賀状でのやり取りだけになっていましたが、今年の年賀状には共通の友人が亡くなったという知らせと、「お互いに元気で過ごそうぜ！」と書き込みがありました。仕事で長い付き合いがあった友人からは、とかく疎遠になりがちだが、年末に久しぶりに会ったことを年賀状の末尾に自作の句で、

「コロナ禍や悪友ありて年忘れ」と書き込まれていた。

もう縁を切ってもいいと思っていた、若いころの友人から思いがけない年賀であった。大震災やコロナ禍で、疎遠になってしまっても、悪友といえるご縁は大事にしたい。